

## 研究ノート

滋賀県における在日ブラジル人女性の  
妊娠・出産・産後のケアに対する調査

高橋 里亥<sup>1)</sup>、古川 洋子<sup>1)</sup>、正木紀代子<sup>1)</sup>、芦田美樹子<sup>2)</sup>、大林 露子<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>滋賀県立大学人間看護学部

<sup>2)</sup>前滋賀県堅田看護専門学校

<sup>3)</sup>近江八幡市立看護専門学校

**背景** 日本において在日外国人の単独移住が始まったのは1980（昭和55）年代である。近年、母国からの家族の呼び寄せなど定住化により家族の形態をもつ在日外国人が増加し、就職、結婚、出産、育児などの問題が浮かび上がってきている。法務省入国管理局<sup>1)</sup>2003（平成15）年末の外国人登録者数は、191万5,030人で、2002（平成14）年末に比べると6万3,272人（3.4%）と増加している。在日外国人登録者の中で今回研究の対象者となったブラジル人の割合が高い県は、静岡県50.3%、三重県45.1%に続き滋賀県は43.4%と全国で3番目に高い。

そこで、本研究では、滋賀県における在日ブラジル人女性がより健康に周産期を過ごすための母子のケアについて調査し、その実態を明らかにすることにより、今後の母子ケアのあり方を探りたいと考えた。

**目的** 滋賀県在住のブラジル人女性がより健康に周産期を過ごすための母子ケアの現状を妊娠期、分娩期、産褥期について調査し、今後の母子ケアを考察する。

**方法** 滋賀県で妊娠、出産したブラジル人女性を対象に、日本で受けた周産期ケアに関してアンケート調査した。調査票は日本語のものをポルトガル語に翻訳しておこなった。本研究の実施では、協力の意向を得た医療施設と対象者に説明し、同意を得た。自記式であり、回答は郵送にて回収をおこなった。調査票のポルトガル語への翻訳は、滋賀県国際協会への依頼、協力による。

**結果** 妊娠期では、初回診察の妊娠時期の平均は2.7ヶ月であった。受診施設は診療所を6名が選択し、通訳者はいなかったと回答していた。妊婦健診は外国語版テキストを母子健康手帳は母国語版を使用していた。分娩期では、初回出産者が多く、医療従事者の通訳者はいなかったが、出産時のサポーターの主軸は夫や家族であったといえる。パースプランの内容からみると、出産時の希望が聞いてもらえたことや、助産師が側にいて分娩期のケアをしたことが出産の満足に繋がっている。産褥期では、産後のケアや育児について9割が困っていないと回答している。その理由として、産後の相談場所として市町村6名、宗教施設3名、母国の出先機関、外国語のパンフレットを利用していた。

**結論** 日本におけるブラジル人女性の妊娠、分娩、産褥のケアに対しては、言語の障壁や文化の違い、に戸惑いながらも出産のケアに対しては満足感をもっていた。育児では、母国語版の育児パンフレットを利用しており、母国に関わるコミュニティにより支えられていた。

**キーワード** 在日ブラジル人女性 妊娠期、分娩期、産褥期の母子のケア、保健サービス

## I. 緒言

近年の国際化は、著しい人々の流れを伴い、「人の国

際化」社会の到来ともいえる。日本では、在日外国人の単独移住は1980（昭和55）年頃より始ったが、1990（平成2年6月）に出入国管理および難民認定法が改定されたために、日本での就労を目的とした「外国人」とりわけブラジル人が増加している。

2003（平成15）年に行われた法務省入国管理局の外国人登録者統計では、在日外国人が191万5,030人であり、日本の総人口伸び率の2.1%に対して、外国人登録者の

2006年9月30日受付、2007年1月9日受理

連絡先：高橋 里亥

滋賀県立大学人間看護学部

住 所：彦根市八坂町2500

e-mail : takahashi@nurse.usp.ac.jp

伸び率は45.0%である<sup>2)</sup>。都道府県別人口に占める外国人登録者の割合は、滋賀県は25,310人で全国第10位、そのうちの国籍別では、ブラジル人が10,995人(43.4%)と全国第3位を示している。在日ブラジル人や、その家族の滞在期間の長期化は、滋賀県の母子保健の分野においても異文化との共生、多文化共生社会の現状に対応していくことが求められている。異国において周産期を過ごす在日ブラジル人女性が、言葉の障壁、生活習慣や文化の違いの中で、不安や戸惑いを抱えているのではないかと考える。一方、ケアを提供する側である日本人の医療者も言葉の壁、生活習慣、文化の違いに戸惑いを感じている現状がある<sup>3)</sup>。

このような現実の中で、在日ブラジル人女性の周産期における保健医療福祉機関の利用、母子保健に関する情報の入手、育児支援の実態について調査を企画した。一般に、妊娠、出産、育児では外国人の異文化ストレスが増し、問題も生じることが予測される。とくに、来日間もない外国人母子はハイリスクに晒されており、母子保健上の支援が不可欠である。

1996(平成8)年5月、厚生労働省は母子保健の国際化の現状を受け、外国人母子への指導体制を強化する旨の通知を都道府県知事に出している<sup>4)</sup>。これを受け滋賀県においても外国人母子への支援事業が実施されている。在日ブラジル人の母子保健ニーズへの対応としては、具体的に、ポルトガル語の母子健康手帳の発行や、予防注射のカレンダー、ポルトガル語仕様の乳児問診票、ポルトガル語の通訳者の配置、ポルトガル語の母子関連事業に関するカレンダーの作成などの事業も展開されているが、十分とはいえない。

そこで、異文化の下で周産期を迎える在日ブラジル人女性が健康で、安心、安全な妊娠、出産、育児ができるために滋賀県で実施されている母子保健サービスや、母子ケアの実態調査から今後の母子ケアに関する示唆を得ることを目的とする。

## II. 調査方法

### 1. 調査対象

対象は、滋賀県下で妊娠、出産した在日ブラジル人女性で1ヶ月健診に来院した9名である。

対象の抽出にあたってはブラジル人が多く在住している地域として、湖南市、甲賀市、東近江市、近江八幡市、彦根市内にある病院、診療所で本研究の趣旨を説明し、協力の意向の得られた8施設にアンケート調査を依頼した。調査票の配布は、あらかじめ協力の得られた8施設の助産師および看護師に配布を依頼した。対象者には書面において調査協力の依頼をし、参加協力が得られたブラジル人女性を対象とした。

### 2. 方法および調査内容

調査方法：滋賀県下で出産した在日ブラジル人女性に日本で受けた妊娠期、分娩期、産褥期のケアや、母子保健サービスについて調査を実施した。

調査内容は、先行研究を参考にし<sup>5)6)7)</sup>研究者らが独自に作成した自記式質問紙を用いた。質問項目は、基本属性に関する項目、妊娠期に対する問いとして、①受診した妊娠の時期や、受診施設②通訳者の有無③外国語による母子保健サービス④健診結果の説明や、相談⑤母子健康手帳の交付と母親教室の受講状況⑥妊娠期の情報源などについて22項目、分娩期に対する問いとして、①出産の施設や、出産施設を選んだ理由②出産の形態③通訳者の有無④出産時のサポーター⑤パースプランとその内容などについて14項目、産褥期に対する問いとして、①通訳者の有無②産後の生活や、育児に関する説明③産後の社会保障④相談窓口⑤退院後の生活などについて9項目の回答をもとめた。質問紙項目は資料1.に示す。質問紙は、日本語とポルトガル語で作成し、記入後郵送を依頼した。ポルトガル語への翻訳は滋賀県国際協会への依頼、協力による。

### 3. 調査期間

2005年6月～2006年6月

### 4. 分析方法

妊娠期、分娩期、産褥期の質問項目への回答者数を実数で集計した。

### 5. 倫理的配慮

個人や施設が特定されないよう無記名とした。調査対象者と施設へは研究の目的、調査内容を説明し、調査により得たデータは研究以外には使用されないことを明記した。

## III. 結果

調査用紙の配布対象は35名、回収は9名(回収率25%)で、すべて有効回答であった。

### 1. 対象者の属性

対象者の内訳は初産婦5名、経産婦4名で、平均年齢は $27.4 \pm 5.3$ 歳 (mean  $\pm$  S D) であった。日本の在日期間は、7ヶ月1名、1～5年6名、6～10年1名、13年9ヶ月1名で、平均在日期間は6.7ヶ月であった。

夫の国籍は全員がブラジル人であり、家族構成は2～5名で、平均家族構成は3.6名であった。健康保険には全員が加入していた。妊婦の日本語の理解は「少しできる」7名、「できない」2名であった。夫の日本語の理解は「少しできる」4名、「できない」5名であった。

### 2. 妊娠期について

妊婦の初回診察の時期は妊娠2ヶ月から3ヶ月、平均2.7ヶ月であった。受診施設は9名のうち7名が診療所

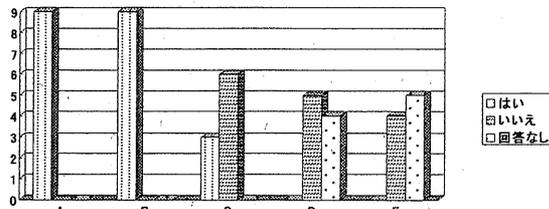
であった。妊婦健診時の通訳者については「有」が、医師、事務職、看護師、助産師各1名、回答「無」が6名であった。健診結果の説明は「受けた」8名、妊婦相談を「受けた」は6名であった。妊娠時の保健サービスで、外国語の電話通訳を「利用した」は3名、「利用していない」が5名であった。外国語外来を「受けた」は2名、「受けていない」が6名であった。外国語版の妊婦健診の手引きは7名が利用していた。母子健康手帳の交付時期は妊娠2ヶ月から5ヶ月で、平均3.2ヶ月であった(表1)。

表1 妊娠期について n=9

妊娠期の時期	2か月(5名) 3か月(3名) 4か月(1名) 平均2.7か月
妊娠時の受診場所	総合病院(1名) 診療所(7名) 回答なし(1名)
健診時の通訳の有無	医師(1名)事務(1名)助産師・看護師(1名) 回答なし(6名)
健診結果の説明	受けた(8名) 受けてない(1名)
妊婦相談	受けた(6名) 受けてない(3名)
外国語による保健サービス	電話通訳:受けた(3名) 受けてない(5名) 回答なし(1名) 外国語外来:受けた(2名) 受けてない(6名) 回答なし(1名)
外国版妊婦健診の手引きテキスト	利用した(7名) 利用してない(2名)
母子健康手帳の交付時期	2か月(2名) 3か月(1名) 4か月(4名) 5か月(2名) 平均3.2か月

母子健康手帳の交付と母親教室の受講については図1に示した。全員が母国語の母子健康手帳を交付されており、「役にたった」と回答している。

母親教室の受講については日本語の母親教室を「受講した」は3名、「受講していない」が6名であった。また、母親教室のポルトガル語の通訳の有無や母国語のテキストの有無については「無」と回答した者が半数であった。



- A...母国語の母子健康手帳の交付は受けたか
- B...母国語の母子健康手帳が役にたったか
- C...日本語の母親教室の受講をしたか
- D...母親教室のポルトガル語通訳はあったか
- E...母国語の母親教室のテキストはあったか

図1 母子健康手帳と母親教室の受講状況

次に、妊娠期の情報源と支援については表2に示した。妊娠期に関する情報収集は、「母国語新聞」4名、「母国語情報誌」3名、「母国語のパンフレット」2名であった。母国語妊婦との交流は全員が「有」と回答している。

日本人住民との交流は「有」4名、「無」が5名であった。「日本人から妊娠、出産、育児を聞きたいか」の質問では「はい」4名、「いいえ」5名であった。妊娠して説明があった内容は全員が母子健康手帳の交付や、使用方法であったと回答している。文化の違いでは8名が「困った」と回答している。妊娠中のサポーターは「夫」8名、「日本人」は0名であった。身近に相談できる医療相談家は「いる」は5名、「いない」が4名であった。

表2 妊娠期の情報源と支援 n=9

妊娠に関する情報収集	母国語新聞(4名) 母国語情報誌(3名) 母国語パンフレット(2名)
母国語妊婦との交流	あり(9名) なし(0名)
日本人住民との交流の有無	あり(4名) なし(5名)
日本人から妊娠・出産・育児を聞きたいか	はい(4名) いいえ(5名)
妊娠して説明があったもの	母子健康手帳の交付(9名) 母子健康手帳の使用(9名) 健康診査の受け方(5名) 入院助産(7名)
文化の違いに困ったか	はい(8名) いいえ(1名)
主な妊娠中のサポーター	夫(8名) 日本にいる同じ出身国友人(1名) 日本人(0名)
身近に相談できる医療相談家の有無	いる(5名) いない(4名)

### 3. 分娩期について

出産の施設では「診療所」が7名であった。出産施設を選んだ理由は「知人の紹介」が8名と多かった。日本での出産回数は「初めて」は6名、「2回目」は2名であった。出産時のサポーターは「夫」が7名、「家族」2名であった。出産時ブラジルの文化を理解した対応であったかについては「はい」が6名であった。

表3 分娩期について① n=9

出産場所	病院(2名) 診療所(7名)
出産場所選択理由	自宅近く(1名) 友人知人の紹介(8名)
日本での出産回数	初回(6名) 2回目(2名) 回答なし(1名)
出産形態	経膣分娩(7名) 帝王切開(2名)
出産時のサポーター	夫(7名) 日本にいる友人(1名) 家族(2名)

表4 分娩期のケア② n=9

内容	はい	いいえ	回答なし
出産時通訳・言葉の理解ができるスタッフの存在の有無	5名	1名	3名
文化を理解した対応	6名	2名	1名
パースプランの実施	7名	2名	
パースプランの実施に満足	9名		
パースプランの内容			
・プライバシーの尊重	9名		
・付添い人の選択	8名	1名	
・マッサージやリラクゼーションを受けた	5名	3名	1名
・出産に関する質問の情報の説明	6名	3名	
・姿勢の自由性	6名	3名	
・早期母乳接触	6名	3名	

バースプランを妊婦自身が作成し、実施できたかについては「はい」が7名であった。バースプランを作成していない人は2名であったが、出産時の希望を取り入れてもらえたと回答している。その内容については「プライバシーの尊重」9名、「付添い人の選択ができた」8名、「分娩時姿勢の自由」「早期の母児の接触ができる」が6名であった。バースプランが実施できたことについては、全員が「満足した」と回答している(表3・4)。

#### 4. 産褥期について

産褥期の通訳者の有無については「有」で「医師」と回答した者が2名、「通訳者無」は5名であった。外国語の電話通訳を「利用した」2名、外国語外来を「利用した」は1名であった。出産体験を看護師や助産師と語りあった者は4名であった。

産後の説明については「赤ちゃんの状態」が9名、「育児の方法」「母乳哺育」「乳房の自己管理」が各7名、「産後の生活やスケジュール」「生活の注意点」が各6名であった(表5)。

表5 産後の説明の有無とその内容

内容	n=9		
	はい	いいえ	回答なし
産後の身体の変化	5名	4名	
セルフケア法	5名	4名	
生活のスケジュール	6名	3名	
生活の注意点	6名	3名	
赤ちゃんの状態	9名		
育児の方法	7名	2名	
母乳哺育	7名	1名	1名
自己母乳管理	7名	2名	
産後の不安の傾聴	8名	1名	
乳房マッサージの施術	5名	4名	

退院後の自分の身体や生活、育児で困ったかについての記載は1名であった。

次に、社会保障の説明については表5に示した。説明の内容は、「出生届について」6名、「養育医療」4名、「予防注射」3名、「育成医療」「新生児訪問」が各2名であった(表6)。

表6 社会保障の説明の有無と内容について

内容	説明を受けた人数 (複数回答)
養育医療	4名
育成医療	2名
出生届	6名
予防接種	3名
新生児訪問	2名

## IV. 考察

本研究の目的は、滋賀県下に在住する在日ブラジル人女性を対象に、妊娠期、分娩期、産褥期の母子のケア、保健サービスの実態を把握することである。在日ブラジル人は2003(平成15)年末は、2002(平成14)年末に比べ6,368人(2.4%)増しの27万4,700人となっている。「定住者」の外国人登録者数が最も多いのはブラジルで14万552人(57.3%)と増加の傾向になっている<sup>8)</sup>。今回の対象者の平均在日期間は6.7ヶ月で滞在期間も長期化している。このことは、在日ブラジル人女性にとっては異文化の中での妊娠、出産、育児期を体験することになり、不安や戸惑いを抱えていることが推測される。

また、日本語の理解についても夫婦とも日常生活では支障をきたさない程度の理解であることや、ポルトガル語が理解できる医療関係者も不足である。今回の実態調査が、ブラジル人女性の妊娠期、分娩期、産褥期母子の支援につながるものと考えられる。

### 1. 妊娠期の状況

初回診察の時期は平均2.7ヶ月で比較的早い。これは、全員が健康保険に加入していることが受診行動を容易にしていると考えられる。また、母子健康手帳の交付は平均3.2ヶ月であり、妊娠の定期健診につながっている。ブラジルでは妊娠中の妊婦健診の回数は13回が理想とされており<sup>9)</sup>、日本の妊婦健診も13回が理想とされていることから、妊娠期の受診を定期的に行うために母子健康手帳の交付時期が関連していると考えられる。

次に、妊娠中の保健指導については、母親学級が開催されているが日本人妊婦を対象とした中に、ブラジル人妊婦が参加するというもので、言語もテキストも日本語が使用されており、通訳者もないことからブラジル人妊婦の参加は少ない。妊婦間の交流も母国語間の交流が主流となっている。日本で出産したブラジル人女性が母親学級などの保健指導の会場に行かなかった理由に「他の妊婦さんに差別されるから」「ドクターから偏見をなくして欲しい」という意見があった<sup>10)</sup>。このように言葉の障壁によりブラジル人女性は、偏見を感じるならば、受診先では一層心細い思いをするだろう。したがって、妊娠期のサポーターも夫や、日本にいる同じ母国語出身の友人であり、コミュニティに支えられているといえよう。妊娠は長期戦であり、医療従事者との信頼関係を深めるためにも言語の障壁を低くすることが必要である。母子健康手帳は、全員が母国語版仕様を選択し、使用方法の説明も全員が受けている。入院助産についても7名が受けている。このことは、母子の健康の保証や、出産の安全を優先していることが理解できる。

### 2. 出産時のケア

日本での出産回数は、初回の人が多く「出産時のサポー

ターは誰か」という問いに「夫や家族」と回答している人が多い。このことは、産婦も医療従事者も言語による意思疎通ができないことや、通訳者の配置もないことから、出産時のサポーターは夫や家族に依存しているといえる。夫も日常生活で使用する日本語は理解できているとしても専門用語など特殊な表現は理解できない。生命の出発という重要な時期を医療従事者も言葉による意思疎通ができない、通訳者もいないという中で、陣痛に耐えながらの出産体験をしていることになる。異文化のもとで出産を迎える産婦にとって、夫が付き添うことの役割は大きいといえる。分娩期の言葉による励ましが産婦にとっては不安の軽減にも繋がることから、夫に依存するのではなく、ポルトガル語のパンフレットなどの用意も必要である。

今回の出産形態は「経膣分娩」が7名、「帝王切開」が2名であった。経膣分娩であった人はバースプランを作成しており、内容として「プライバシーの尊重」、「分娩時の付き添いの選択ができた」、「分娩中の姿勢や、行動が自由であったこと」などバースプランが希望とおりであったことに「満足した出産であった」と答えている。ブラジルでは、帝王切開で出産する割合が48.0%と高く、ブラジル人はその理由として、日本人と比べると痛みに弱い人が多く、簡単に帝王切開されるといわれる<sup>13)</sup>という報告もあるが、日本における分娩は助産師により腰部のマッサージや、呼吸法、リラクセスなど妊婦の側にいて言葉の障壁はあったとしても手厚いケアが受けられたことに出産に対する安心や満足感に繋がったものと考えられる。

妊婦健診や出産施設は診療所を選択しており、この情報源はコミュニティの中の友人や、知人である。植村<sup>12)</sup>は「姉や友人から情報を得て選択した医療法人で妊婦健診を受けている」との報告と同様の結果であった。また、妊婦が受診する施設にはポルトガル語の通訳者は「無」と6名が答えている。

### 3. 言語の問題

言語による意思疎通の困難さは多くの文献でも取り上げられており<sup>13)14)</sup>、在日ブラジル人のためのテキストの準備もあるが、困った時の相談者は家族や友人が大半であり、外部を頼らない傾向にある<sup>15)</sup>。という国民性も考えられる。これは、母国語主流のコミュニティの中で強いネットワークに支えられているともいえる。

今回の調査で明らかとなった外国人母子の援助では、コミュニケーションあるいは言語の問題が第1に指摘される。言語の問題は相互の関係を築き、必要な伝達をする際重要であるが、コミュニケーションは言語だけでなく視覚・聴覚に訴える身ぶり・声・文字記号を媒体として伝達することである。具体的な対策として、まずは通訳ができる人を確保すること。ボランティアを募ること

も1つの方法ではあるが、助産師または施設内の他のスタッフが、言語を駆使できるにこしたことはない。今回の調査でも妊娠に関する情報は母国語新聞や、母国語情報誌などであった。妊娠、出産を不安なく迎えるためには、医療従事者のコミュニケーション技術・医療機関の通訳のシステム作りが不可欠である。

次に、社会資源については利用したと回答しているが、説明不足や、外国語版の手引き書ではないことから、どの程度の理解されていたかは疑わしい。

### 4. 産褥期の状況

産褥期においては入院中産後の生活や、育児についての説明は受けており「困ったことがあったか」の問いには1名ではあるが、産後の身体に関連した記載があった。記載がなかったのはコミュニティで解決できているものもあり、正常を逸脱した場合の解決できない状況を記載していたことが伺える。つまり、退院後の生活も育児もコミュニティに支えられていることが考えられる。

子育ての情報については市や町役場の相談窓口で情報を得ている人が多く、滋賀県では、在住外国人支援として、市や町に自主サークルがあることや、ポルトガル語の育児に関する手帳なども市町村保健センターに用意されていること。数名ではあるが、市や町役場に通訳者がいること、滋賀県国際協会には、相談員が配置されており、子育ての情報については市や町など主要機関から情報を得ていることが伺える。在日ブラジル人が多い地域の市町村については、情報源はあるが、県下全域には渡っていないため整備が必要である。西田は<sup>16)</sup>「異文化滞在者が、受け入れ文化における対人コミュニケーション・スキーマの間関係について情報を得ることは、異文化適応の必要条件である」と述べていることから、正しい情報をタイムリーに提供することは必要である。

### 5. 結論

1. ブラジル人の在日滞在日数の平均は6.7ヶ月で、長期化の傾向にある。夫は全員ブラジル人で、言語への障壁や文化の違いに戸惑っている。
2. 妊娠に気づいて始めて受診する施設や、出産施設は在日ブラジル人のコミュニティの友人や、知人の情報をもとに施設の選択しており、診療所が多い。
3. 分娩時には夫や、家族に付き添ってもらうことを選択し、出産時の希望が取り入れられたことや、助産師の関わりに対しては、出産に満足感を持っている。
4. 外国人母子の援助は、コミュニケーションや、言語に問題がある。通訳者の配置や、対訳表、パンフレットなど説明書類を利用することや、各市町村で作成された資料を共有することも必要である。
5. 産後の生活や、育児に関しては市町村を窓口として情報を得ており、外国語版や母国語のパンフレットを利用している。

今回の調査対象は回答者が9名と少なく、母子ケアと保健サービスについて実態の一部の調査になった。今後は具体的な聞き取り調査をすることにより、妊娠期、分娩期、産褥期の母子へのケアや保健サービスについて助産師としての支援を考えていきたい。

## 謝 辞

本調査の主旨に理解とご協力をいただきました在日ブラジル人女性9名の皆様、近江八幡市立総合医療センター、公立甲賀病院、明愛産婦人科、神野レディースクリニック、親愛レディースクリニック、濱田レディースクリニック、笠原レディースクリニックの病院長・助産師・看護師関係者の皆様に深謝いたします。また、ポルトガル語の翻訳にご協力いただきました財団法人滋賀県国際協会外国人相談員竹屋久美子氏に深謝いたします。

## 文 献

- 1) 法務局入国管理局：平成15年末現在における外国人登録者統計について，平成16年6月。
- 2) 前掲 1)
- 3) 久保田君枝：周産期にある在日ブラジル人の現状，第30回，母性看護，104-107，1999。
- 4) 加藤尚美：在日外国人母子の妊娠・出産への支援，武谷雄二他，助産学講座，7，地域母子保健，p183，医学書院，2003。
- 5) 久保田君枝他：周産期看護と異文化コミュニケーション研究，静岡県立大学短期大学 部特別研究報告書，49，p1～7，2003。
- 6) 飯田田美代子他：在日ブラジル人女性の生活を考えるための生活実態調査，愛知母性衛生学会誌，第19号，p13～17，2002。
- 7) 李節子：在日外国人母子支援ガイドライン，助産婦雑誌，Vol. 57，No 8，p64～72，医学書院，2003。
- 8) 前掲 1)
- 9) 新實房子他：当院で出産した在日ブラジル人の周産期における実態調査，愛知母性衛生学会誌，第22号，p34，2004。
- 10) 前掲 6) p18。
- 11) 前掲 6) p19。
- 12) 植村直子他：甲西町における日系南米人妊婦と母親のソーシャル・サポートの実態，滋賀母性衛生学会誌，Vol. 1，No 1，p34，2002。
- 13) 中村安秀：在日外国人子育て支援，小児研究会，第62巻，第2号，p194，2003。
- 14) 松尾博哉：在日外国人母子保健医療の現状と課題，周産期医学，Vol. 34，No 2，p263，2004。
- 15) 前掲 5) p7。
- 16) 西田ひろ子：“異文化コミュニケーション”創元社

## 資料 1

**PEDIDO DE COOPERAÇÃO DA ENQUETE ÀS SRAS. MÃES BRASILEIRAS QUE VIERAM AO EXAME PERIÓDICO DE 1º MÊS, PÓS-PARTO**

Nossas saudações pelo nascimento de seu bebê! Cremos de que estão passando dias corridos acompanhando ao crescimento de seu bebê com muita alegria.

O Setor de Pesquisa de Enfermária Maternal do Conselho de Escolas de Enfermagem da Província de Shiga tem como objetivo estudar as formas de assistências às gestantes estrangeiras, analisando as experiências das pessoas que passaram o período de gestação, parto, pós-parto e criação de bebê no Japão. Temos o intuito de aperfeiçoar a forma de assistência ao parto e de enfermagem maternal respondendo às suas necessidades. Assim solicitamos a gentileza de respondê-lo, lembrando de como foi o seu período de gestação, parto e a sua vida pós-parto, contando com a sua compreensão ao nosso objetivo.

Esta enquete consiste em 7 páginas. Solicitamos a gentileza de preenchê-la até o final, por favor. Anexamos o envelope-resposta, requisitando para que responda e coloque-a neste envelope, e nos remeta dentro de 1 semana pelas caixas de correio. As respostas serão ingressadas em dados computadorizados, por números e códigos, sem constarem nomes pessoais. Será mantida a segurança e privacidade dos dados pessoais, de forma que não lhe prejudique de maneira alguma, pois o resultado desta pesquisa será apresentado como estatística, preservando a privacidade individual, sem especificar a pessoa.

Novembro de 2005

Membros do Grupo do Setor de Pesquisa de Enfermária Maternal do Conselho de Escolas de Enfermagem da Província de Shiga :

Escola Profissionalizante de Saúde Geral de Shiga:	Masaki Kiyoko
Escola Profissionalizante de Enfermagem De Katata(Shiga)	Ashida Mikiko
Escola Profissionalizante de Enfermagem de Ohmi Hachiman	Oobayashi Tsuyuko
Universidade da Província de Shiga	Furukawa Yoko
Universidade da Província de Shiga	Takahashi Satoi

Informações sobre a Pesquisa:

Escola Profissionalizante de Saúde Geral de Shiga, no setor Josan Gakka com Masaki Kiyoko Shiga-ken Moriyama-shi Moriyama 5-4-10 Tel (077) 583-4147 E-mail: s254878@pref.shiga.jp
--

**Perguntas sobre seus dados pessoais. Favor preencher dentro dos ( ) a resposta correspondente, ou em números. Assinale com ○, somente uma resposta correspondente quando não houver a indicação de escolha múltipla.**

1. Qual é a sua idade? ( ) anos completos
2. Quanto tempo reside no Japão? ( ) anos ( ) meses.
3. Quanto tempo a mais você pretende permanecer no Japão?  
Por mais ( ) anos ( ) meses.
4. Qual é a nacionalidade de seu esposo? ( )
5. Quantas pessoas compõem sua família? ( que vivem juntos, incluindo você)?  
( ) pessoas
6. Atualmente você trabalha? ① Sim ② Não
7. Para quem respondeu “Sim” na pergunta nº 6:  
① Está trabalhando ② Está em licença maternal
8. Para quem respondeu “Não” na pergunta nº 6:  
① Parou de trabalhar durante a gravidez ② Parou de trabalhar para o parto  
③ Não estava trabalhando
9. Houve alguma alteração na sua condição de trabalho após a gravidez ou parto?  
① Sim ② Não
10. Você está ingressado ao Seguro de saúde?  
① Sim ② Não
11. Você compreende a Língua Japonesa?  
① Compreende ② Fala um pouco ③ Não compreende
12. Seu esposo compreende a Língua Japonesa?  
① Compreende ② Fala um pouco ③ Não compreende

## (REFERENTE A SUA GRAVIDEZ) (妊娠について)

1. Em que período da gestação desta gravidez, você foi pela primeira vez ao hospital?  
em (            ) semanas de gestação
2. Em que instituição médica você consultou pela primeira vez?  
① Hospital    ② Clínica Particular    ③ Outros (            )
3. No local do exame periódico, havia tradutor ou assistente dentro do hospital que compreenda seu idioma ? Assinale com ○ a todos os números correspondentes ( escolha múltipla)  
① Médico            ② Escriturário            ③ Enfermeira ou assistente de parto  
④ Assistente médico-social            ⑤ Outros (            )
4. Quanto ao exame periódico, você recebeu a assistência de saúde em seu idioma ?  
1) Por tradução através de telefone ou vinda de tradutor    ① sim    ② não  
2) Atendimento médico em seu idioma            ① sim    ② não
5. Tem utilizado livretos traduzidos em seu idioma, referente aos exames periódicos ?  
① sim    ② não
6. Recebeu explicações sobre o resultado dos exames ou desenvolvimento do bebê ?  
① sim    ② não
7. Conseguiu conversar sobre as mudanças psicológicas provenientes da gestação, e sobre a vida diária , durante o exame periódico?  
① sim    ② não
8. Em que período desta gestação recebeu a caderneta Mãe-filho( *Boshi-Kenko techo* ) ?  
(            ) semanas de gestação
9. Utilizou a caderneta *Boshi-Kenko Techo* traduzida em seu idioma?  
① sim    ② não
10. O conteúdo da caderneta *Boshi-Kenko Techo* lhe foi útil?  
① sim    ② não
11. Participou das aulas instrutivas às mães (*Hahaoya gakyu*)?  
① sim    ② não
12. Ao participar das aulas *Hahaoya gakyu*, estava presente algum tradutor do setor de saúde?  
① sim    ② não

13. Foram utilizados materiais com textos traduzidos em seu idioma, nessas aulas de *Hahaoya gakyu*? ① sim ② não
14. Quem é que mais lhe auxiliou neste período de gestação?  
① esposo ② amigos(as) compatriotas que vivem no Japão  
③ amigo(a) japonês(a) ④ Outros ( )
15. Por quais fontes adquiriu as informações sobre a gravidez? Assinale com ○ a todos os números correspondentes (escolha múltipla)  
① Jornal de seu idioma ② Informativos em seu idioma  
③ Informativos municipais em japonês ④ Livro japonês sobre criação de bebê  
⑤ Aula *Hahaoya Gakyu* ⑥ Panfletos em seu idioma  
⑦ Outros ( )
16. Existe algum especialista médico perto de você, a quem você pode consultar durante a gravidez? ① sim ② não
17. Tem tido intercâmbio com os japoneses? ① sim ② não
18. Teve contato com alguma gestante de sua nacionalidade? ① sim ② não
19. Gostaria de perguntar sobre a gravidez, parto e criação de filhos às japonesas?  
① sim ② não
20. Teve algum problema pela diferença cultural durante a gravidez?  
① sim ② não
21. Após ter engravidado, recebeu as seguintes explicações? Assinale com ○ a todos os números correspondentes (escolha múltipla)  
① Entrega da caderneta *Boshi Kenko techo*  
② Forma de uso da caderneta *Boshi Kenko techo*  
③ Forma de receber o exame periódico  
④ Referente ao subsídio ao parto (*Nyuin Josan*)
22. Você planejou a forma do parto conforme o seu desejo?  
① sim ② não



11. O parto foi realizado pela sua forma planejada? ① sim ② não
12. Está satisfeita com a forma de parto? ① sim ② não
13. Você conhecia sobre o sistema de Subsídio ao parto (*Nyuin Josan*) ?  
① sim ② não
15. Você utilizou o sistema de Subsídio *Nyuin Josan*?  
① sim ② não

### REFERENTE A INTERNAÇÃO PÓS-PARTO (産後の入院中について)

1. Estava presente algum tradutor, ou pessoa do hospital que compreenda o seu idioma?  
Assinale com ○ a todos os números correspondentes (escolha múltipla)  
① Médico ② Escriturário ③ Enfermeira ou assistente de parto  
④ Assistente médico-social ⑤ Outros ( )
2. Recebeu assistências de saúde em seu idioma?  
1) Tradução através de telefone ou vinda de tradutor? ① sim ② não  
2) Atendimento médico em seu idioma ① sim ② não
3. Pôde conversar com as enfermeiras ou assistentes de parto, sobre as experiências do parto? ① sim ② não
4. Você recebeu explicações sobre os dados abaixo indicados?  
1) Explicação sobre as condições e alterações do corpo pós-parto : ① sim ② não  
2) Ensinaaram as formas de cuidados que você própria pode executá-los depois do parto: ① sim ② não  
3) Explicação sobre o programa da vida pós-parto : ① sim ② não  
4) Cuidados a serem tomados nas atividades diárias pós-parto:  
① sim ② não  
5) Explicação sobre o estado do bebê : ① sim ② não  
6) Explicação sobre a forma de criação do bebê: ① sim ② não  
7) Explicação sobre a criação por amamentação maternal: ① sim ② não  
8) Explicação sobre a forma de amamentação maternal que você poderá fazê-lo por si, pós-parto: ① sim ② não  
9) Deram ouvidos às suas dúvidas ou inseguranças sentidas pós-parto?  
① sim ② não  
10) Recebeu a massagem das mamas pós-parto? ① sim ② não

5. Recebeu explicações sobre as previdências sociais ( recursos sociais) pós-parto?

Assinale com ○ a todos os números correspondentes( escolha múltipla)

- ① Sistema *Yoiku Iryo* ( subsídio de despesas médicas para bebês com sub-peso)
- ② Sistema *Ikusei Iryo* ( subsídio de despesas médicas para bebês com deficiência )
- ③ Registro de nascimento
- ④ Vacinações
- ⑤ Visita domiciliar ao bebê recém-nascido

6. Foi apresentado algum setor de consulta ou alguém que possa consultar quando necessite de ajuda?

- ① sim    ② não

7. Foi explicado sobre a forma de vida depois de ter alta , e pôde compreendê-la?

- ① sim    ② não

8. Após ter alta, surgiu algum problema em seu corpo?

- ① sim    ② não

1) Desde quando, de qual forma ?    Escreva livremente

2) Como o solucionou?

9. Após ter alta, surgiu algum problema com o bebê?

- ① sim    ② não

1) Desde quando, e qual foi o problema?    Escreva livremente.

2) Como o solucionou ?

10. Quais são os recursos sociais que você usufruiu sobre a gravidez, parto e criação do bebê?

Assinale com  a todos os números correspondentes ( escolha múltipla)

- ① Entidades não governamentais (NGO)
- ② Setor de consulta sobre direitos humanos de entidades sem fins lucrativos-NPO
- ③ Centro público de proteção à mulher (*Josei center*)
- ⑥ Associações Internacionais
- ⑦ Instituições religiosas (igrejas, etc)
- ⑧ Instituições de seu país de origem ( Consulados , etc)
- ⑨ Setor de atendimento para estrangeiros das prefeituras.

11. Se poderemos contar com sua cooperação às posteriores pesquisas, favor indicar seu nome, endereço, e telefone de contato.

Nome

Endereço

Número de telefone

Agradecemos a sua colaboração !

# Study of Maternity Care for Brazilian Residents in Shiga

Satoi Takahashi<sup>1)</sup>, Yoko Furukawa<sup>1)</sup>, Kiyoko Masaki<sup>1)</sup>,  
Mikiko Ashihara<sup>2)</sup>, Tsuyuko Obayashi<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>School of Human Nursing, The University of Shiga Prefecture

<sup>2)</sup>Former Katata Nursing College

<sup>3)</sup>Oumi-Hachiman School of Nursing

**Key words** Brazilian residents, maternity care, health service